KITA SUMA

2021　第46回「北の住まい」住宅設計コンペ

課題　「ソトの家」

わたしたちは“ソト”にある環境や人とのかかわりの中で暮らしています。

そして北海道は、森や海そして星が近くにあり、雪も魅力です。都市に居ても風や花の香りを感じます。外や自然、場所によるアクティビティは、建築と生活スタイルを構築する要因にもなります。ソトに身を置いたデザインをしてみませんか。

計画条件

・北海道内の地域と敷地、住戸形式、家族構成等は自由に設定してください。

賞　金

・最優秀賞　25万円（1点）
・優秀賞　5万円（2点）
・奨励賞　2万円（4点）

締　切（厳守してください。）

・2021年9月28日㈫　持参の場合は16時必着。
なお、土曜日、日曜日は、受付できません。
郵送の場合も9月28日㈫必着

参加資格

・一般、学生等を問いません。
・北海道内居住者とします（学生・生徒は北海道内の教育機関に在籍している者に限ります）。
・個人参加、グループ参加は自由です。

提出物

(1)　図面
作品名、設計趣旨及び設計意図を表現する図面（縮尺は自由）。図面には、氏名、記号、サインなどを記入しないでください。A1（841×594）サイズ一枚、**横づかい（縦づかいは無効です。）**。表現は自由です。ハレパネ又はスチレンボード（厚さ5mm程度）などでパネル化してください。

(2)　返信用ハガキ
受付番号をお知らせするために使用しますので63円の官製ハガキに応募者の住所、氏名を記入して提出してください。
（官製ハガキ以外は、受付できません。）

(3)　応募用紙
応募作品の「作品名」と応募者の郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、所属先名（学生は、学校名・学年）、電話番号をA4版の用紙に記入して（形式は自由）応募作品とともに提出してください。

審査委員（委員は五十音順）

委員長　米田浩志
北海学園大学工学部教授

委　員　赤坂真一郎
㈱アカサカシンイチロウアトリエ代表取締役

委　員　小澤丈夫
北海道大学大学院工学研究院教授

委　員　小西彦仁
ヒココニシアーキテクチュア㈱代表取締役

委　員　佐藤孝
北海道科学大学名誉教授

委　員　澤田貞和
㈱日本工房代表取締役

委　員　松田眞人
㈱都市設計研究所代表取締役

選考経過

①一次審査（2021 年 10 月 4 日～ 7 日）
　一次審査通過者の受付番号は 10 月中旬に主催者ホームページ（www.do-kjk.or.jp）で発表します。
②二次審査（2021 年 10 月 28 日 10：00～）
　一次審査通過作品から 10 作品を選出します。
③最終審査（2021 年 10 月 28 日 13：00～）
　二次審査通過作品（10 作品）から各賞（計 7 作品）を決定します。

入賞者発表

・2021 年 11 月初旬
　入賞者に直接通知するとともにホームページでも発表します。

入賞作品の展示等

①2021 年 11 月 8 日㈪～11 月 12 日㈮
大五ビル　6 階ホール（札幌市中央区大通西 5 丁目 11）
②2021 年 11 月 24 日㈬～11 月 26 日㈮
大通ビッセ 1 階ホール（札幌市中央区大通西 3 丁目）
・一次審査通過作品は、協会広報紙「ひろば」（12 月発行）に掲載します。
　また、最優秀賞受賞の方には、同誌への寄稿をお願いしています。

応募作品の著作権等

・応募作品の著作権及び版権は、応募者のものとします。ただし、この事業の趣旨に基づいて、主催者が図書の出版や、新聞、雑誌、その他に掲載又は啓発宣伝などに利用する場合は無償で認めるものとします。
・応募作品は原則として返却しません（返却希望の場合は、事務局に相談してください）。

主　　催

（一社）北海道建築士事務所協会

第 46 回「北の住まい」住宅設計コンペ 入賞者名簿

最優秀賞	三浦光雅	北海学園大学大学院 2 年
優秀賞	塩野谷基悟	北海学園大学 3 年
優秀賞	田元　良	北海道科学大学 4 年
奨励賞	渡邉憲成	北海学園大学大学院 2 年
奨励賞	藤井淳史	室蘭工業大学 4 年
奨励賞	国貞佑弥	室蘭工業大学大学院 1 年
奨励賞	川去健翔	室蘭工業大学大学院 2 年

後　　援（順不同）

北海道開発局
北海道
（一財）北海道建築指導センター
（一社）北海道建築士会
（公社）日本建築家協会北海道支部
（一社）日本建築学会北海道支部
㈱北洋銀行
㈱北海道新聞社
㈱北海道建設新聞社

協　　賛（順不同）

（一財）北海道建築指導センター
（公社）日本建築家協会北海道支部
北海道建具工事業協同組合連合会
㈱総合資格札幌支店
㈱工成舎
㈱橋本川島コーポレーション
池田煖房工業㈱
熱源設備㈱
三洋興熱㈱

最優秀賞

「盆に蹌踉（よろ）めく笠と帯」

三　浦　光　雅

北海学園大学大学院２年

ソトに身を置いたデザインを求めた今回の課題に対して、作者は寄棟屋根と壁でつくられるシンプルな矩形平面をもつ家型から出発し、屋根と壁を切り分け、バランスを失った屋根が壁にもたれかかる状態を構想することで応えた。

敷地は、旭川市高砂台の傾斜地。ここを、盆地を形成する盆の縁にみたて、「不安定なお盆の上で踊る器」という詩的なイメージを提出している。

空間を仕切る壁と、その上に斜めに引っかかるように覆いかぶさる寄棟屋根によって、この家は、様々なかたちのウチとソト、あるいはそのどちらとも言えない領域を合わせもち、身近な地面、近景、遠景、さらには大きな空と多様な関係を生むことに成功している。この構成によってできた上階の寝室と家族室は、積雪寒冷地においてソトとの関係を持ちながらも守られる親密な家族の空間となり、GL レベルにある空の間、中庭、前庭は、ソトとの関係において明快に差異化されデザインされている。本作品は、シンプルなコンセプトの魅力に留まらない、具体的な空間として高く評価できる秀逸なものと言えよう。

最後に、本作品が、審査の冒頭から終了まで一貫して、全審査委員から最も高い評価を得た結果、最優秀賞に選定されたことを付け加えておく。

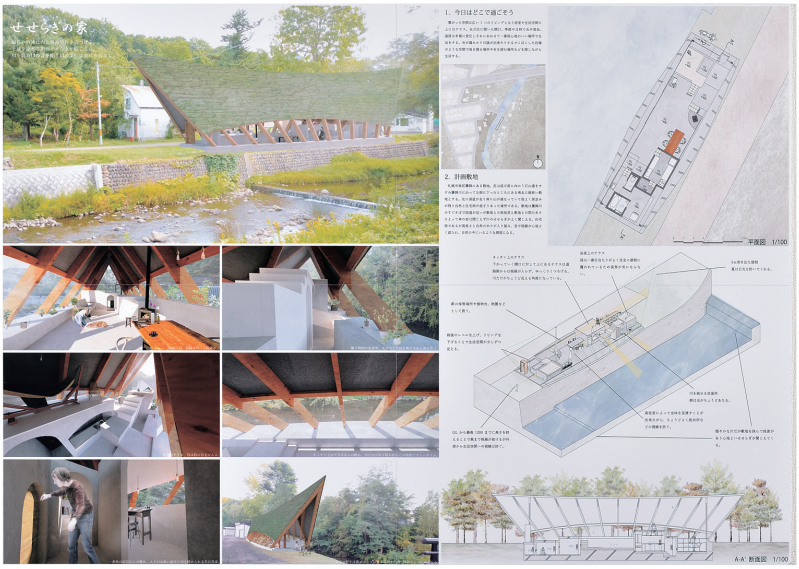
審査委員　小澤　丈夫

優秀賞

「せせらぎの家」

塩野谷　基　悟

北海学園大学３年



札幌市の南、簾舞川と道路に接した長細い敷地に計画された住宅である。

自然と近隣住宅が入り交じったこの場所は自然の音や川のせせらぎがクリアに聞き取れる環境である。

この住宅は川に沿う様に長細いプランを持ち、各機能が少しづつ高さを変えながら視線に変化を与えている。だがこの提案で最も重要なのは、視線もさることながら音に着目した点にある。

大きな屋根が下部の住居スペースにかぶせられ、その下の空間に入り込む川の音や、小鳥の囀り葉の囁きなど音が今回の課題「ソトの家」を強く表現していると評価した。

この空間には静かな時間と、ストレスフリーな空気が漂うであろう。優秀作品に相応しい作品であった。

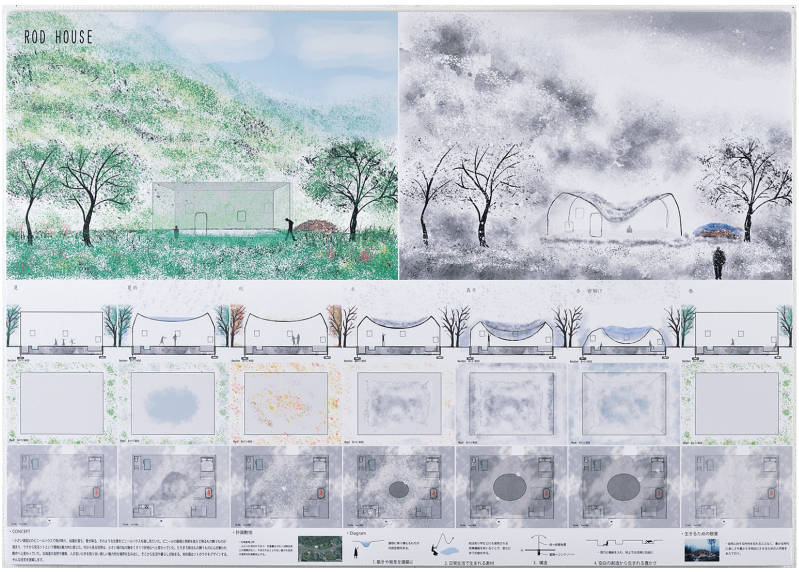
審査委員　小西　彦仁

優秀賞

「ROD HOUSE」

田　元　　良

北海道科学大学４年



炭素繊維による竿状の柱に支えられたビニルハウスのような建築が、外部環境（雨や雪、落ち葉など）に影響され、空間形状を変えながら四季と呼応する物語は詩的な魅力にあふれ、多くの審査員を惹きつけました。

手描き風の素朴なプレゼンテーションも、文章では伝えきれない作品の空気感を補完しています。

自然と人間の関り方を問うようなこの建築は、アートとしての側面も持ち合わせており、今後の「北の住まい」の可能性や発展性を示唆する作品に仕上がっています。

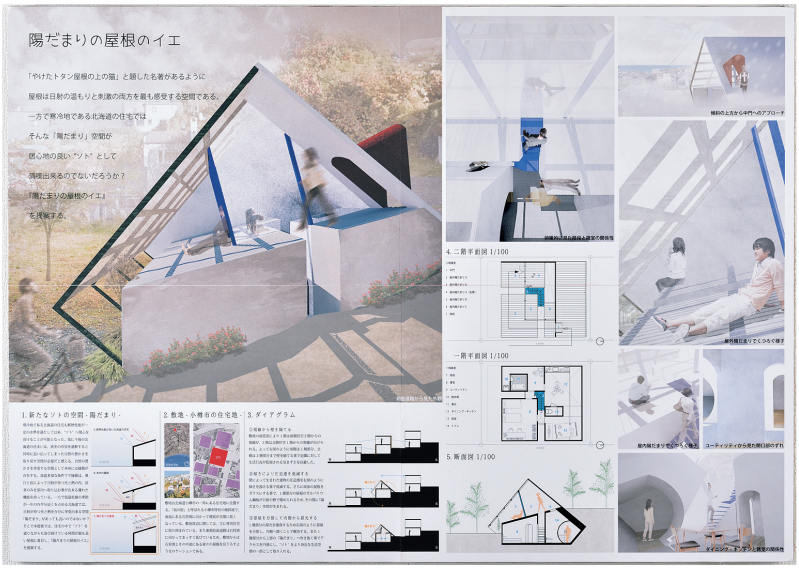
審査委員　赤坂　真一郎

奨励賞

「陽だまりの屋根のイエ」

渡　邉　憲　成

北海学園大学大学院２年



屋根の上に陽だまりをつくり、傾斜地にあって隣の家からの視線を避ける意図から屋根から入る住宅を提案している。主な居室は半分地下に収められているため、光をどう取り入れるかが注目される。

屋根の上にガラスに囲まれた空間が玄関とともにあり、「ソト」の空間そのままに、たくさんの光が入る場所になっている。玄関から階段を降りれば、周囲からは遮断された静かな住空間がある。居室に光を取り込むためのスリット・階段･吹抜が住宅の中心にあるが、断面をみると充分な明るさが確保できているか気になる。

屋根へのこだわりを少し緩めて、陽だまり空間のレベルを変えて各居室との繋がりをデザインした方が居心地がよい住まいを実現できたのではないだろうか。

審査委員　澤田　貞和

奨励賞

「斜面と離れの家」

藤　井　淳　史

室蘭工業大学４年

この家は家族で過ごす生活空間を室内にまとめ、個人で過ごす空間を離れに分散配置する事によって、近隣とのふれあいやソトとの関係を醸成するような仕掛けとなっています。そして、敷地は豊平川河川敷に接しており、屋上から、堤防より低い部分は河川と反対の住宅地側を、堤防より高い部分は豊平川の方向が眺められるようになっています。巧みに住空間に外部を取り込む仕掛けが用意された秀作であり、鳥瞰パースは分かり易くこれを表現しています。

惜しむらくは近隣とのふれあい空間の演出や外部を眺める空間の在り方がやや単調（ステレオタイプ）であり、まだまだ多くの可能性やバリエーションがあっても良かったように思われます。きめ細かく、そして大胆にこれを追求していれば、更に高い評価を得ることが出来たのではないでしょうか。

審査委員　松田　眞人

奨励賞

「2里吹き抜けの家」

国　貞　佑　弥

室蘭工業大学大学院１年

敷地は古くから鉄の街として栄え、歴史･風土･産業の重なりを感じる室蘭市の港が見渡せる住宅地。この街のレイヤーを取り込む住まいは２層の吹抜があり外部化している。

住宅の諸室は段差で仕切られ水平に繋がり、街に向かって開いている。繋いだ各室は横に重なる住まいのレイヤーを意識させ、その方向軸が室蘭の街のレイヤー軸をイメージさせ、二分された住宅の形態に結実するデザイン意図が見える。惜しいのは、その方向軸に捕らわれすぎたのか、２層吹き抜けのデッキ空間の多様性・形の面白さが足りないような気がする。もっと内部化した賑わいのある空間に出来たら、さらに優れた作品になっていたと思われる。

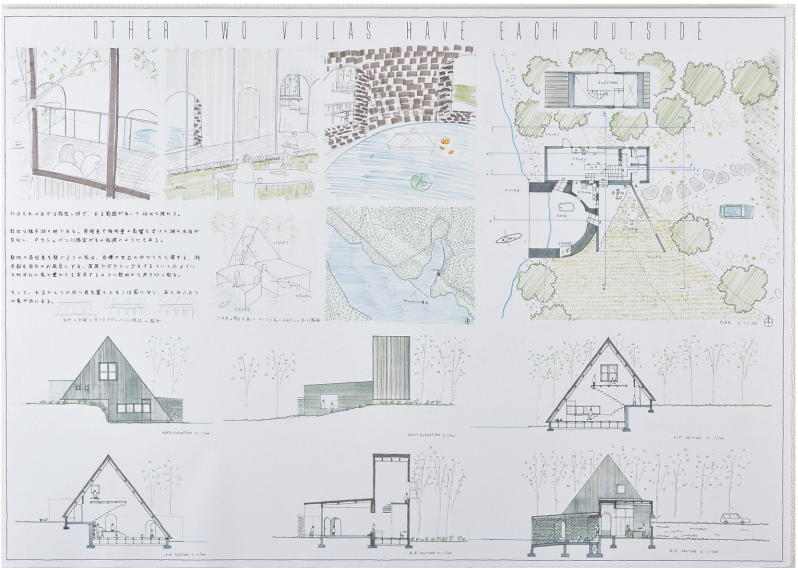
審査委員　澤田　貞和

奨励賞

「OTHER TWO VILLAS HAVE EACH OUTSIDE」

川　去　健　翔

室蘭工業大学大学院２年



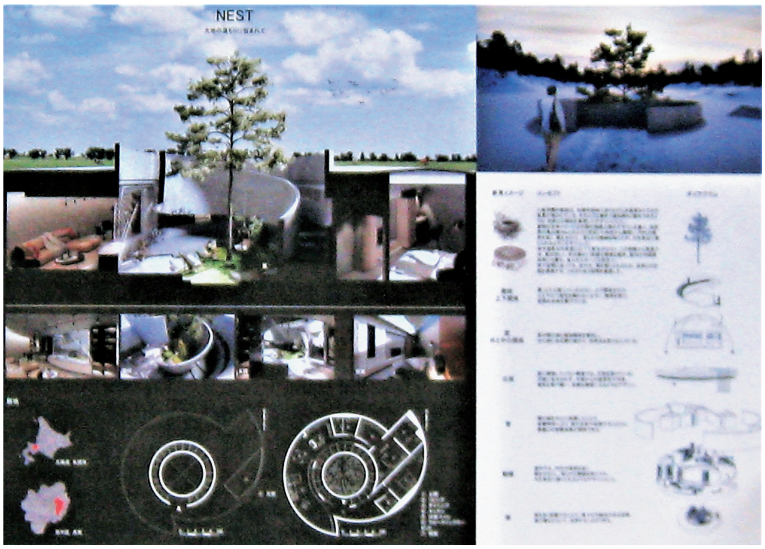
この家は、場所と人のかかわりから見出した３つの形から構成された建築である。タウシュベツ川橋梁は、冬の時期、凍結した湖面に姿を現し、夏から秋にかけて水位は上昇し橋は水没する。水位上昇の時期、この湖畔の露天風呂空間は、湖のすべてを受け入れる形状のＵ字形にしている。ダイニング空間は、季節や天候に応じて食事の場所を室内から半屋外、さらに外へとピクニックに誘うかのような形である。また、土地の高低差を受け入れたスキップフロア建築は､開放的な空間構成である。

この作品は、コンペの求めているソトに身を置いたデザインであり、場所によるアクティビティから素直に形を生んでいる。フリーハンドによる表現も巧みであり、優れた作品である。

審査委員　佐藤　　孝

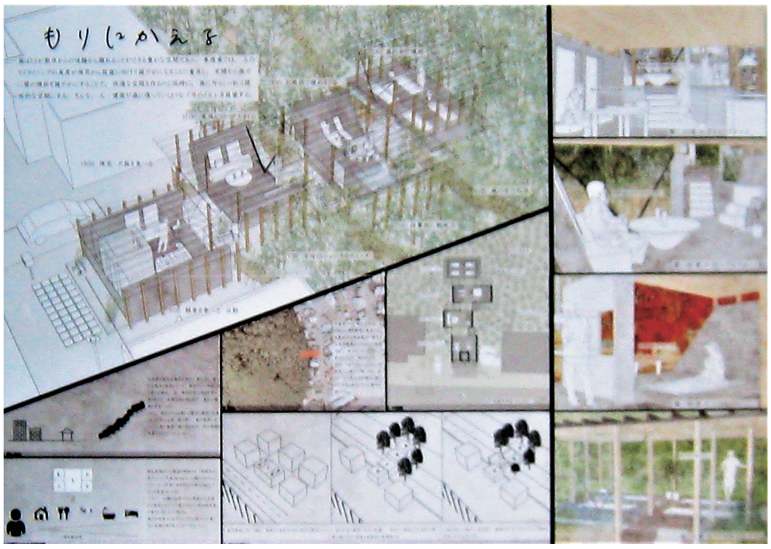
2次審査通過作品

梁　　憲　杰
学校法人美専学園北海道芸術デザイン専門学校１年



坂　田　　楓
フリーランス

磯和耕太朗（北海道大学大学院１年）
本田　隼大（北海道大学大学院１年）
（共同作品）



１次審査通過作品

田　口　提　也

北海学園大学４年

大橋　醇也（北海道科学大学３年）
大島　　涼（北海道科学大学３年）

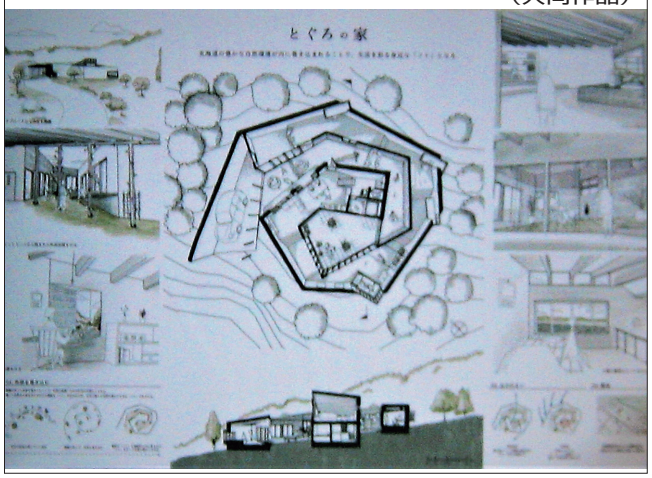
（共同作品）

加藤　丈治（北海道科学大学３年）
飯田二千翔（北海道科学大学３年）

（共同作品）

上木　翔太（北海道大学大学院）
寺嶋　啓介（北海道大学大学院）
野田　暁布（北海道大学大学院）

（共同作品）



生出　陸人（北海道科学大学３年）
奥野　柊也（北海道科学大学３年）

（共同作品）

二　口　龍　朋

学校法人美専学園北海道芸術デザイン専門学校２年

相　馬　功　希

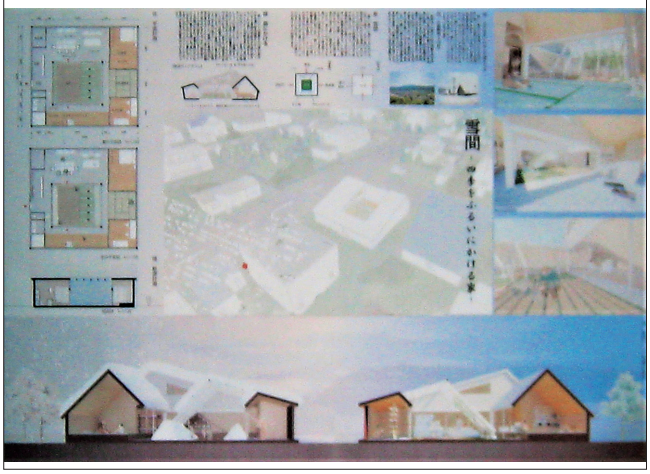
札幌市立大学４年

吉川　明香（北海道科学大学４年）
坂本　修也（照井康穂建築事務所）
越後駿太朗（北海道科学大学大学院１年）

（共同作品）

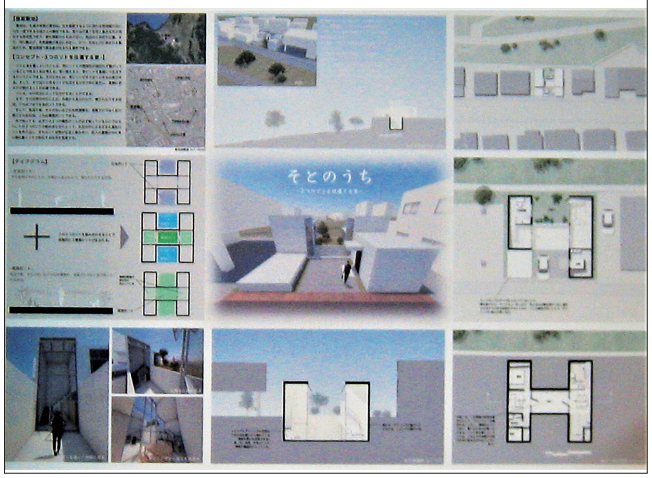
原田　耕太（室蘭工業大学４年）
佐野　由和（室蘭工業大学４年）

（共同作品）



池　田　流　風

北海道科学大学大学院１年



立花　恵大（北海道大学大学院１年）
齋藤　　惇（北海道大学４年）

（共同作品）

大通ビッセ展示会